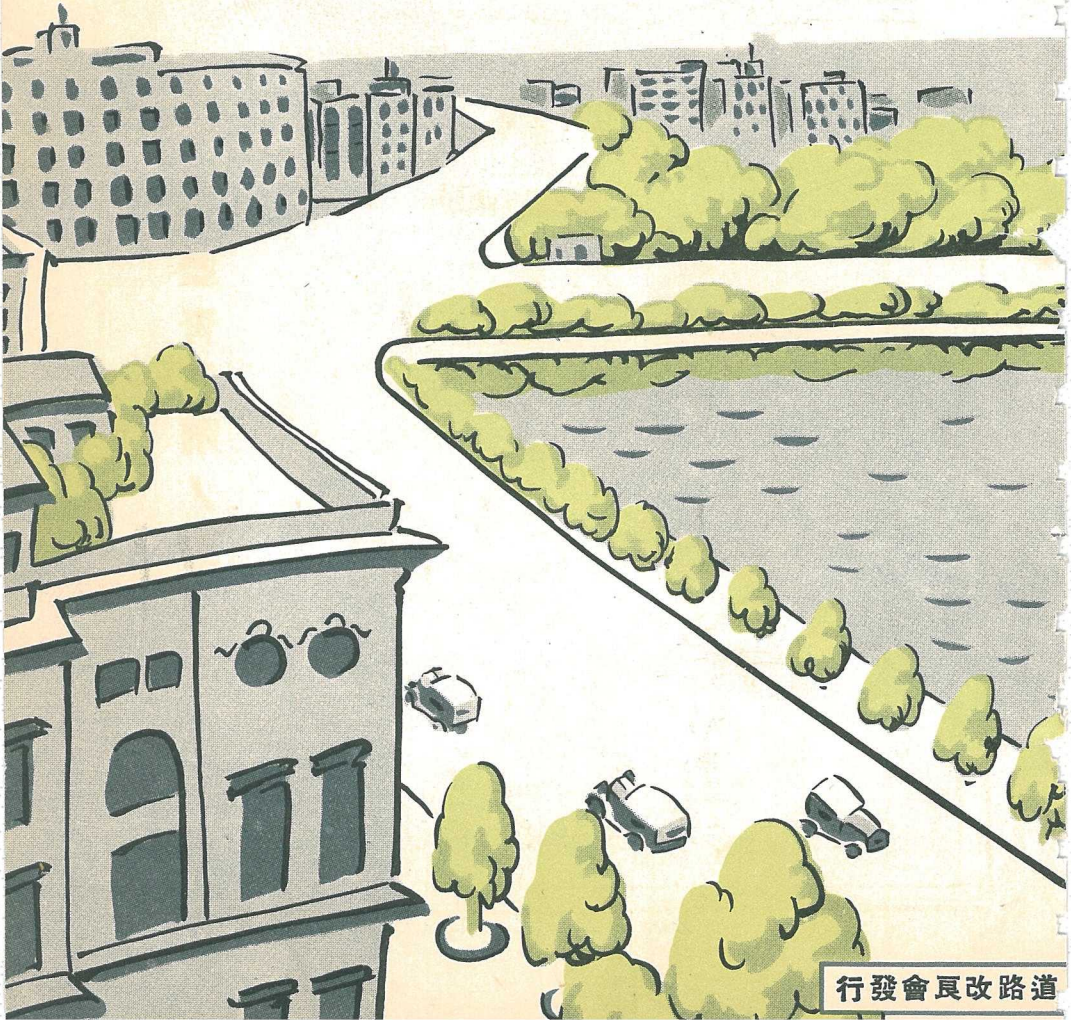


昭和七年二月二十五日印刷
昭和七年三月一日(毎月一回)日發行

道路の改良

禁 轉 載

第四十卷 第三號

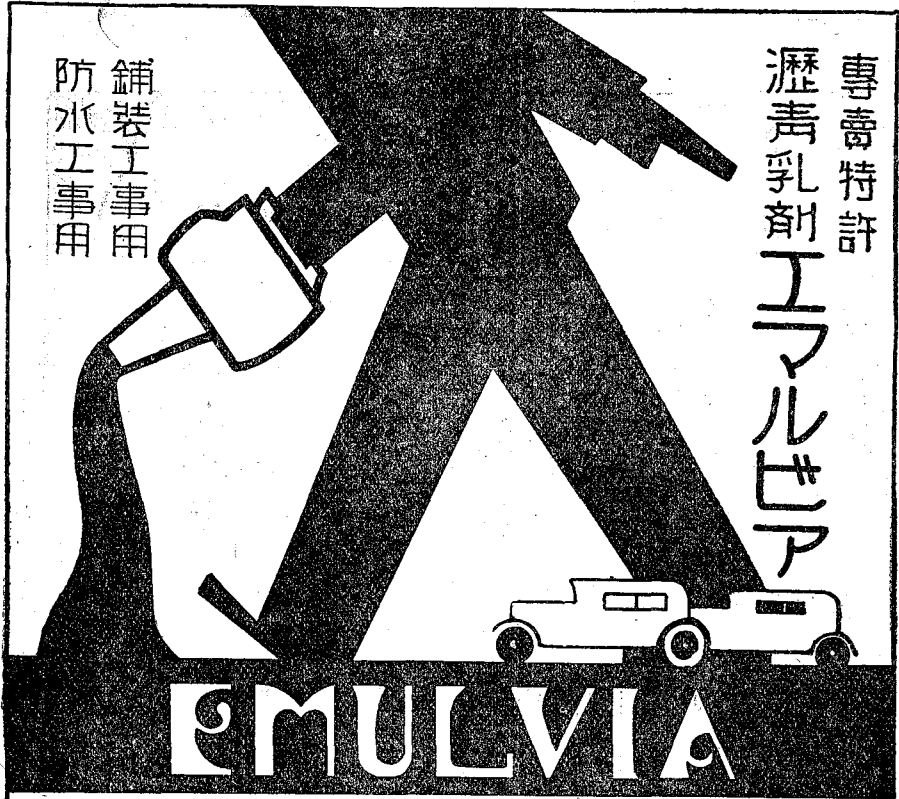


道路改良會發行

專售特許

瀝青乳劑 エマルギア

鋪装工事用
防水工事用



EMULVIA



東京瀝材工業所

東京市京橋区銀座西三ノ一(碌々館)

電話京橋(56)一三二五番

製造工場

横浜市鶴見区菅沢町一九五

電話鶴見一一三一番

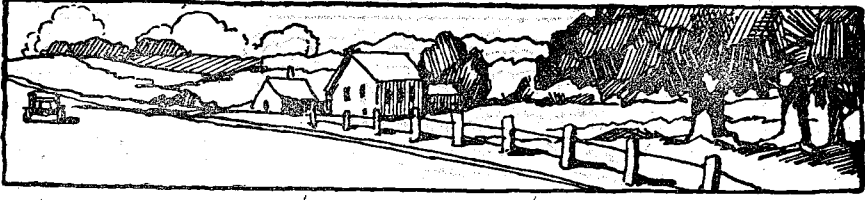
工事部

大倉土木株式会社

東京市京橋区銀座二丁目

電話京橋(56)自二一三〇番 至二一四九番

説明書贈呈



道路の改良 第十四卷 第三號 目次 昭和七年三月一日發行

口繪 竣功せる瀬高橋(福岡縣)
竣功せる十三大橋(大阪府)

卷頭言 (二)

論說

自動車交通の發展に就て 中央大學 教授 檜崎敏雄(三)

研究

路政閑話 外國新聞切抜帳から 内務省道路課長 武井群嗣(七)

交通流學に就て 工學博士 藤井眞透(二七)

明治大正時代に於ける内務省直轄道路橋梁工事に就て 内務技師 池本泰兒(三)

宿場役人に就て(六) 京都帝國大學 經濟學部 和田篤憲(五)

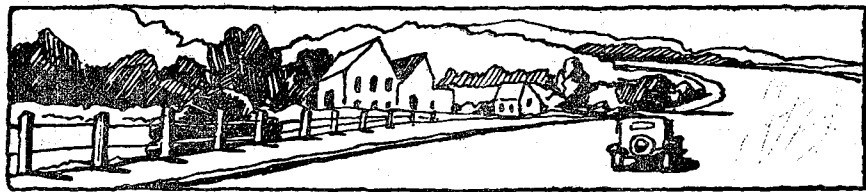
自動車運送より觀たる橋梁・道路の構造(三) 鐵道省事務官 菅健次郎(六)

技術

構造物の實驗解法(六) 内務技師 青木楠男(充)

連續桁の計算(二) 内務技師 大野博(充)

セメントの化學的抵抗性に就て(七) 内務技師 西川榮三(充)



海外道路時事

一九三一年に於ける米國の道路事業……………内務省土木試験所長 穂(一〇五)
 南オーストラリアの道路改良……………工學博士 物部 長(一〇六)
 排雪機の懸賞募集……………米國に於ける土木技術者の失業狀態……………シカゴの大高架道

史料

英國道路物語(三)……………山下 正文(一一三)

紹介

滿洲地方に於ける土木事業と都市計畫施設(二)……………拓務技師 三浦 馨 雄(一一三)

瀨高橋復舊工事概要……………福岡縣土木課長 坂本 一平(一一六)

道路工事執行標準示方書(二)……………徳永 泰人(一二四)

漫録

異動した府縣土木部課長評……………路政 僧(一二五)

通信

佐賀・宮崎・大分を視察して(二)……………瀧川 勸 則(一二七)

地方通信

東北方面……………關西方面……………中國方面……………九州方面……………(一二八)

雜報

關門間連絡施設速進陳情……………(一三九)
 叙任辭令……………(一四〇)
 編輯室の内外……………(一四一)



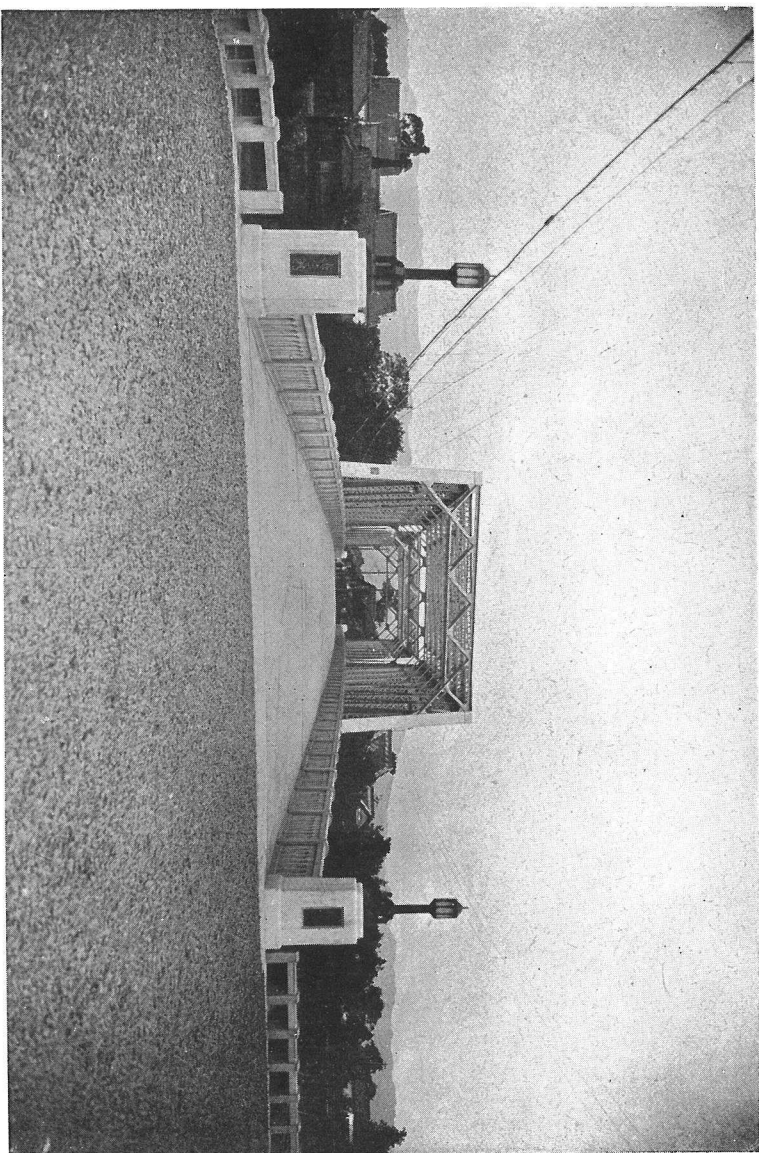
日
本
及
多
形
石
炭

日本鑛業株式會社

東京丸ノ内
電話丸ノ内(23)1241-7

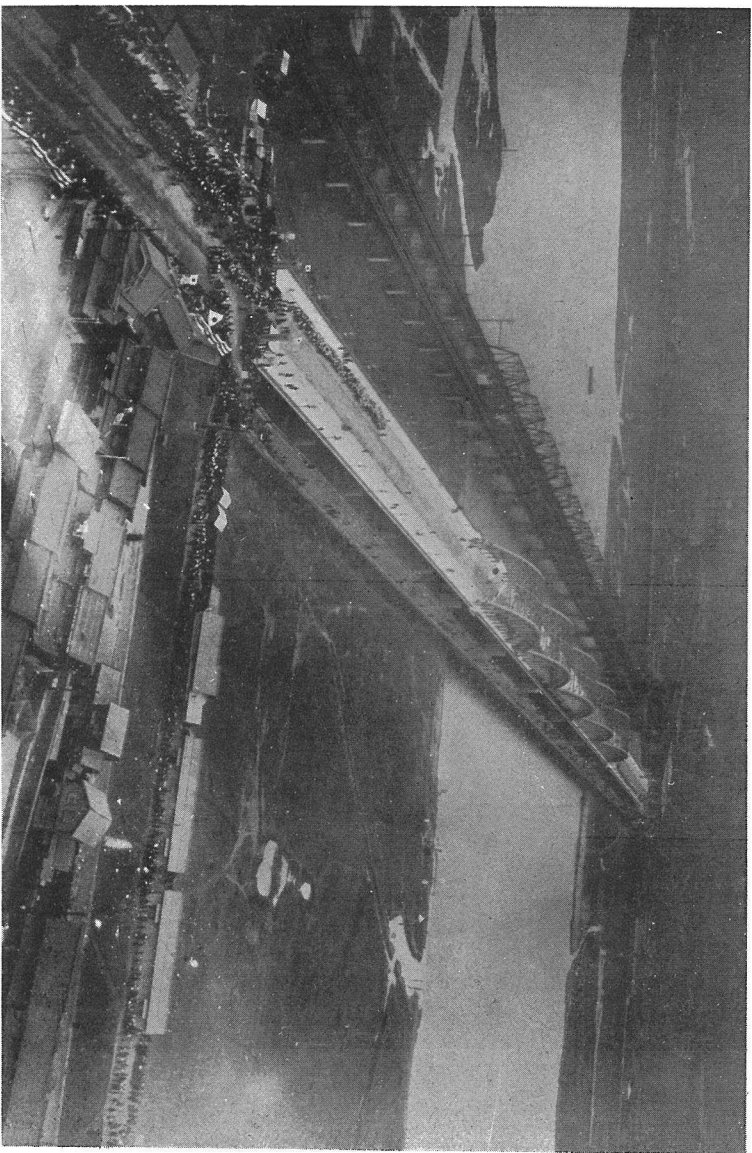
大阪中ノ島
電話本局 260-4

橋 高 瀬 る せ 功 竣



型丁及橋桁構鋼型トツラナ種橋線高瀬米留久道縣府名線路川部矢町高瀬郡門山縣岡原在所
(照參事記欄介紹) 圓九〇七、〇〇一 費工米五、八員情効有米六四一長橋橋桁土塚浪防鐵

橋 大 三 十 一 せ 功 竣



型橋 線田地阪大 道縣府 **名線路** 設架に川淀新る至に防堤岸右川淀町之南區同りよ町本津中區川淀東市阪大
鏡單 連十 米三七、二三間徑 橋桁鏡式一バルゲ敷水張柳雨(二)連五 米八〇〇、四六間徑橋樁掛繫 敷水低央中(一)
 餘米一八六 橋大三十 長橋 連一 米六三五、四二間徑橋桁鏡單 橋小三十一上河運桁長(三)連二 米六四八、二二間徑橋桁
 クワロフトルアソヌア連車 ルタルモトソメセ連歩 懸鋪面橋 米〇二 眞幅 三五米六三七長全 餘米五二橋小三十
 (照參欄信通方地) 圓餘萬六十九百 **費工總** 米方立一四二 **材石** 錢五二一、九七一 トソメセ 九一噸五三二、六 **材鐵**

道路工事は

浅野セメント

3日

新道

いくら照しても
駱駝と
コンクリート道路は
平気です



1日舊道を掘返し



2日にコンクリートを打ち



3日にトラック新道を走る

いくら降っても
家鴨と
コンクリート道路は
平気です



浅野セメント株式会社

簡易舗装

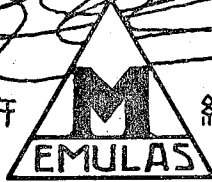
乳剤界の明星

EMULAS



エ
ム
ラ
ス

専賣特許



純国産品

優良～至廉

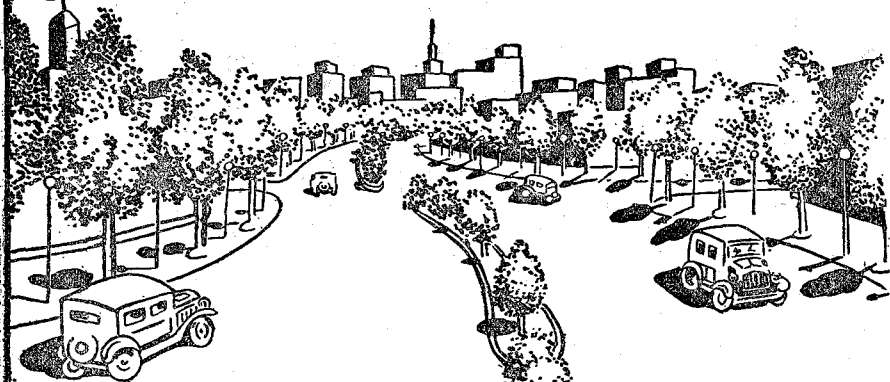
能力. 25 呎/日

日本エムラス工業所

東京府下吾嬬町西四ノ二四 電話墨田(74)一七〇九番

專賣特許 第八一六四一號 第八三六三七號
第八六四八五號 第八六六三三號

Cold Bitumen Emulsion



石川液体アスファルト
石川アスファルトテック
石川セメント防水急結剤

石川アスファルト舗装株式会社

本店 東京市京橋區銀座二丁目越後屋ビルディング

電話 京橋 七四〇番 七四一番 一五八三番

支店 福岡市天神町不動貯金銀行ビルディング

電話 一〇五六番

工場

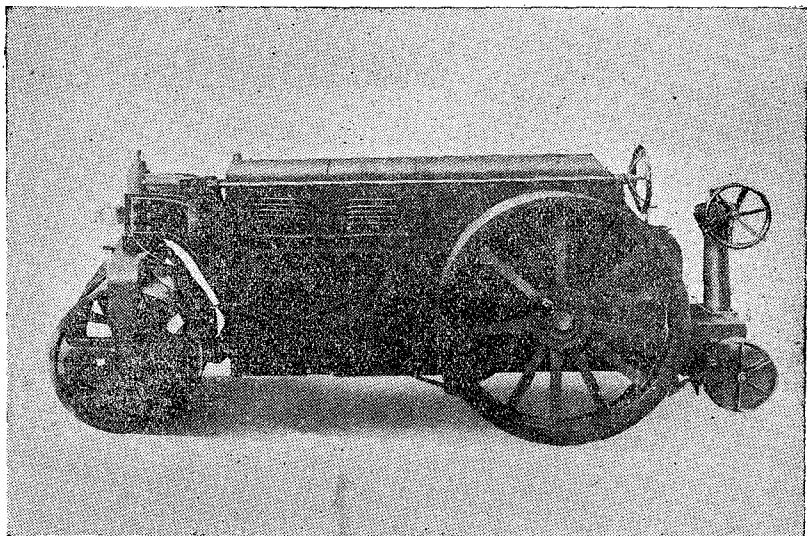
東京工場 東京市外羽田町

電話五六番

中國工場 廣島市外廿日市町

電話一一四番

純國産　ロード・ローラー エレファント



従來のロード・ローラーは理論上は完全なものでありますが

弊社のロード・ローラー・エレファントは我等多年の道路舗装工事の體驗から従來のものゝ欠點を毎々補ひたる完全な純國産品ですから能率優秀且つ經濟的であります

其他アスファルト舗装用具一式御用命に應じます

株式會社　高　野　組　機　械　部

事務所　東京丸ノ内三菱二十一號館

電話丸ノ内(23)一九四八

特 許

ア ス カ ル

用 途

道 校
ア プ
床

ラ ッ ト

ホ ー ム

路 庭
面

鋪 裝



特 長

純 國 産
耐 寒 耐 熱
經 濟 的
施 工 簡 易

低 廉

簡 易 鋪 裝

日 本 ア ス カ ル 工 業 合 資 會 社

東 京 市 赤 坂 區 青 山 北 町 四 ノ 一 〇 三

電 話 青 山 (63) 4973・8148 番

工 場

川 崎 市 南 河 原 六 一 二 番 地

出 張 所

名 古 屋 ・ 京 都 ・ 神 戶 ・ 京 城

請
負
業

事工木土の足自給自

材
料
は

ト	ツ	チ	デ	リ	ソ	オ	ネ
品	工	加	土	凝	混	種	各
ト	イ	タ	ス	ラ	エ	ニ	ク
ク	ツ	ロ	ブ	ニ	ク	ミ	及
石	鋪	小	及	石	碎	岡	花

裝 鋪 劑 乳

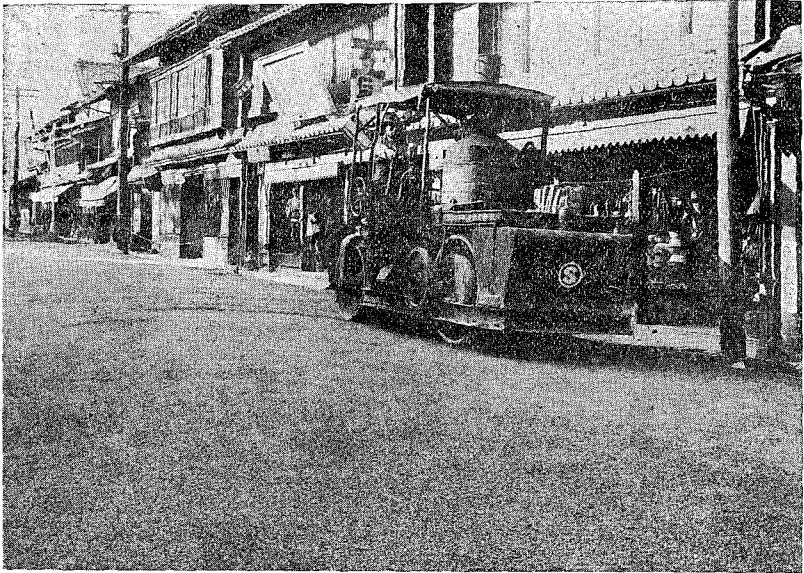


産 國 良 優

負 請 事 工

呈 贈 録 型

技 術 顧 問 工 學 博 士 牧 彦 七



長 野 縣 飯 田 町 ミ ク ニ 乳 劑 鋪 裝 工 事 ノ 狀 況

四 地 番 二 目 丁 三 橋 京 區 橋 京 市 京 東

社 會 式 株 ト ツ チ デ リ ソ 本 日

六 六 一 三 至 一 六 一 三 自 (56) 橋 京 話 電

内 ル ビ 倉 片 〇 九 ノ 二 濱 北 區 東 市 阪 大 所 張 出 阪 大

八 四 〇 三 局 本 話 電

專賣特許

浚渫船

砂利

採掘機

水上用・陸上用

無限軌道

● 専門製作

三 泉 工 業 株 式 有 限 公 司

東京市日本橋區通二丁目五番地
電話 〇二七三(24) 橋本日話電

(型錄贈呈)

材骨アルトアスファルトシート

末粉石水寒

通過 85% 篩 百 二

茨城縣多賀郡大甕驛前(常盤線)

旭礦末資料會社大甕工場

電話久慈濱一三一番

同 下孫 驛前 下孫工場

電話河原子四九番

同 東京市外南千住町二丁目八八番地

同 本店

電話淺草四六二五番

製造品目

寒水石粉各種、寒水石粒各種、孔雀砂、銀星砂、黑砂、其他
化粧砂各種

◎水戸市に於て嘗て天覽を賜りたる弊社の石粉末は大東京の
シートアスファルト鋪裝の九〇%を供給したり

◎微粉末の製造はエヤーセパレーションに依て理想化する

會社名變更御案内

弊社は昭和三年瀝青乳劑が初めて日本に渡來した當時誰れも手を付けないのを各位の御鞭撻と御指導の許に挺身的に之れが普及發展に努力致し毎年優秀の成績を見て居ましたが今回感ずる處あつて社名を

日本道路鋪裝株式會社(日鋪)

と變更致しまして我國の道路鋪裝の爲一層の微力を盡したいと思ひます、何卒倍舊の御指導と御援助を願上ます。

私共多年の經驗に依れば乳劑鋪裝の成績は乳劑の品質でなく寧ろ施工法の如何に因るものにして熟練の技術は簡易鋪裝費で高級的鋪裝が出來ます。

弊社は常に

新しい鋪裝は日鋪から

簡易鋪裝費で高級鋪裝は日鋪から

の信念の許に斯業の向上發展に一意邁進致してゐる事を何卒御記憶下さい。

昭和七年二月十三日

日本道路鋪裝株式會社

舊名(日本ビテュマルス鋪裝工業株式會社)

專務取締役

馬

渡

操

東京市麹町區丸ノ内三丁目十番地
電話丸ノ内(23) 特長 四八二九番
四九八二番

昭和七年

道路の改良

三月一日

第十四卷
第三號



言 頭 卷

現内閣が國民の信任を問ふべく行ふた總選舉に於ては、政友會自身も豫期しなかつた壓倒的の勝利を得て、國民の總意が政府を信任することが明かと爲つた。是で政局は一と先安定した譯であるが、國民が政府を信任した所以は、與黨政友會の宣言した政策の實現を希望したに外ならない。即ち内は財政を根本的に建直し、外は對支問題を解決し、産業立國策の實行を所望したのである。従つて現内閣は是等の諸政策を實行して國民の信任に酬ゆることを要する。固より是等の總てを特別議會に提出して總決算することは不可能事であつて、夫れを責むるのは無理であるが、國民に誓約した政策、殊に總選舉に於て大捷を博した最大原因たる所謂不景氣退治策の如きは、當面の問題にして其の解決焦眉の急にある、政府は之を特別議會に提出して實現する責務を有する。

不景氣退治策の方途は種々考案されるが、産業立國策に於ける産業土木事業計畫の如きは蓋し最も適切なるものと言はねばならぬ。然るに之に對する政府の態度を觀るに、主務官廳たる内務省が唯だ計畫したるに止まり、之に對する財務當局の態度は頗る曖昧なるのみならず、一方に於ては公債の濫發を避け増税を差控え減債基金を復活して公債發行價格の維持に力むと言ひ、さながら民政黨時代に於ける財政方針を踏襲するかの如き意見を強調しつゝあるのは、暗に産業立國策の實行を後年に譲らむとするに非ざるか頗る懸念に堪えない。吾人は政府が一日も早く對策を樹立して國民生活の不安を一掃し、國民の待望を裏切ること無きを所望する。